✻　園長のひとりごと

今年のゴールデンウィークは、コロナ5類移行直前にも拘らず行動規制が掛からなかった事から、どこの観光地も感染拡大前の賑いを見せた連休だったのではないでしょうか。

既に年初から空港では外国からの旅行者に加え、国内旅行を楽しむ親子連れも数多く見かけられましたので、このゴールデンウィークの賑いは予測されていたとはいえ、幾つもの「行列」にため息するのは私だけでしょうか…

コロナの感染者数報道が、全く鳴りを潜めたのに反し、季節外れのインフルエンザの集団感染の報道には驚かされましたが、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ではありませんが、このコロナ禍で学んだものを簡単に捨ててしまうのは、余りにもモッタイナイことです。この学んだ知恵を生かし切りたいものです。

昨年から続く物価高騰ですが、一向に落ち着く様子も無く電気料金も6月から20％程度の値上げが実施されるようで、ガソリン代は6月から国の補助金が縮小され9月には終了すると報道されています。

また、日々の生活に欠かせない食料品も、鳥インフルエンザの為に店頭から一斉に卵が姿を消してしまった事には驚かされましたが、その他の食料品も値上げが繰り返し行われ、少しずつ確実に生活を圧迫している事は間違いないと思います。

こども園での3歳以上児の給食費も、この4月から200円の値上げを保護者皆様にお願いしたところですが、現在旭川市において昨年度同様保育園等利用者の負担軽減策を検討しているとの事ですので、その際には今年度値上げさせていただいた部分を調整させて頂こうと考えておりますので、今しばらく負担軽減策の提示をお待ちください。

これとは別に、既にチラシ配布致しました「北海道　お米・牛乳子育て応援事業」として、18歳以下の子育て世帯に対しお米券や牛乳贈答券の配布が行われております。文字通り子育て世帯の経済的支援であると同時に、道産品のお米と牛乳がコロナ禍による外食の減少や学校給食の減少等による消費低迷に対する支援策として行われております。お米も牛乳も、直ぐに生産量を増やしたり減らしたり出来るものではなく、安定した消費こそが安定した食料供給に繋がるものと言えます。

食料安全保障という言葉が有る様に、今後は食料需給が国の明暗を左右する状況も考えられます。朝食のご飯やコップ一杯の牛乳を前に、ちょっと考えてみるのも良いのではないでしょうか。